



# 森林総合教育センター(愛称: morinos) 基本方針 概略版





# “ぎふ木育” ひろがりは無量大数 $\sim \infty \sim$

暮らしからの  
アプローチ



ぎふ木遊館

森からの  
アプローチ



森林総合教育  
センター(愛称: morinos)

Step 6 (成人期)  
伝える

Step 5 (高校大学期)  
参加・行動

Step 4 (中学校期)  
考え・判断する

Step 3 (小学中～高学年期)  
調べ・行動する

Step 2 (小学低学年期)  
関心を持つ・気づく

Step 1 (乳幼児期)  
ふれあう・楽しむ

指導者育成  
【2施設共通】

森林体験

森のようちえん

木育ひろば  
木育教室

体験プログラムの開発・実施  
【空世代共通】

体験プログラムの開発・実施  
【空世代共通】

# 森林総合教育センター(愛称: morinos)について 全体像

森林文化アカデミー (学長 涌井史郎)

現  
状

専修教育部門

クリエイター科、エンジニア科

生涯教育部門

一般県民向け

移設+拡充

専門技術者教育部門

林業技術者、木造建築技術者向け

新

H31設立

森林総合教育センター(愛称: morinos)(岐阜県版ハウス・デス・バルデス)

## ○日本初の森林教育(ぎふ木育)に関する総合教育施設

(目的) 100年先の森づくりを見据え森林に対して責任ある行動ができる人づくりを目指し、幼児から大人まで幅広い世代が自然を理解し、活用すること(ぎふ木育)を浸透させるための実践教育・研究施設。日本の森林教育のリーダー的人材を育成・輩出。

(内容)

「ぎふ木育」の推進 ※木遊館と連携

○情報発信と交流機能

○プログラム開発・実践

○指導者の育成機能

◇スタッフ

センター長、ディレクター(2名)、事務員(2名)、専門職(1名)を想定  
ノウハウのあるNPO等 2名常駐を想定

◇スケジュール

H29～H30: 開設準備、基礎プログラム開発 H31: 設立、試行 H32: センター開所

委託

寄付

連携実施

\* 民間団体や企業と積極的に連携  
\* モデル化して各地域に展開

民  
間  
企  
業  
・  
団  
体

新

H32オープン

森林文化アカデミー内にセンターハウスを建設

展示・作業場等の施設は学びの場として自主建設

構造: 木造・平屋建て(約130m<sup>2</sup>) スケジュール: H30設計、H31造成・建設

連携・誘導

新

H32オープン

木遊館

(位置付け) ぎふ木育の総合拠点施設  
(都市部における森林教育の  
ゲートウェイの機能を果たす施設)



連  
携

連携・誘導

- 環境保全モデル林  
美濃市古城山等(県下5ヶ所)
- 緑と水の子ども会議、木育教室  
県下の約120校・園／毎年が実施
- 常設版木育ひろば、市町村が実施する木育イベント、森のようちえん等

# 1 背景・課題と目的

## 背景・現状

- 林業に利用されない地域の里山など身近な森林が放置されている
- 県民、とくに子どもが森林と接する機会が少なくなっている
- 県民の森林や林業への関心が低下している。
- 林業技術者など山で働く人が減少している
- 森林を活用した子育てや教育への関心が高まってきている



## 課題

- 県民に対して、森林での楽しみ方を伝えるなど、森林や林業について学習する場や機会の提供が必要
- 子ども達や社会が抱える多くの問題(人格の形成・ストレス等)を、森林を活用して改善するための効果的な手法を確立することが必要
- 森林での活動を通じて、森林への関心や森林・林業への理解を高めることができる指導者が少ないので計画的な養成が必要

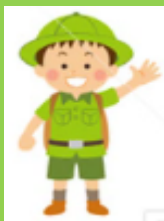
## 必要な対策

- 人と森とのつながりをつくるとともに、森林の楽しみ方、森林や林業への理解を高める場や情報を提供する
- 子どもたちの人格形成や大人も含めたストレス軽減など、森林を活用した効果的なプログラムを開発する
- 森林を活用した様々なプログラムを実践できる指導者の育成やスキルアップ研修等を行う



### 森林総合教育センターのコンセプト

すべての人と森をつなぎ、  
森と暮らす楽しさと森林文化の豊かさを  
次世代に伝えていく



## 2 森林総合教育センター(愛称: morinos)の姿

行政だからこそ  
できること・やるべきこと

SDGs (持続可能な開発目標)  
の達成に資する活動を推進する。

自立でき、生きる力を手に入れる。体感的な危険を予知できる能力を身に着ける。

ぎふ木育  
30年  
ビジョン  
の推進

生きる力  
を育む

参加完  
成型

プログラムも空間も参加者と一緒に  
創り上げる。  
「自分たちの空間」意識を醸成する。

変化し  
続ける

作り込まない。固めない。県民のニーズや社会  
状況、「今ここ」を見ながら臨機応変に変化し  
ていく。

すべての  
人へ

SDGs  
持続可能な  
開発目標

学ぶ  
ではなく  
楽しむ  
0 → 1

すべての年齢層・立場の人を対象に。特に民間ではカバーで  
きない層や社会的必要性のある層を重点的に実施する。

興味のない人を森とつなぐために、「森を教える」  
のではなく、まずは「森で楽しむ・親しむ」から。

体験から学ぶ。主体  
的に学ぶ。部分では  
なく全体をとらえる  
アプローチを大切に  
する。

体験学習  
アクティブ  
ラーニング  
ホリスティック

トンガリ  
実験場

オープン  
リソース

「それいいね！まずはやってみよう」  
新たな実験にどんどんチャレンジ。  
アイデアやシステムを次々と生み出  
していく。

生まれたアイデアやノウハウは、  
公開可能なものについては無償で  
提供。

※有識者への聞き取り等  
をもとに作成

国版森林環  
境税の創設  
を背景とした  
市町村  
による  
森林教育  
の推進



### 3 森林総合教育センターの機能 (行政が担うべき役割)

#### ぎふ木育の 推進

#### (1) 情報提供と空間提供機能

全ての県民とつながる情報提供  
県民が気軽に立ち寄れる空間の提供  
全国の自然教育・自然体験に関する情報の収集



#### (2) プログラム実験・開発・実践機能

民間では困難なプログラムの実験・開発・実践  
国内外の有識者を招へいしての効果的なプログラムの開発・実践  
完成したプログラムを民間に提供するシンクタンク機能



#### (3) 指導者・民間団体の育成機能

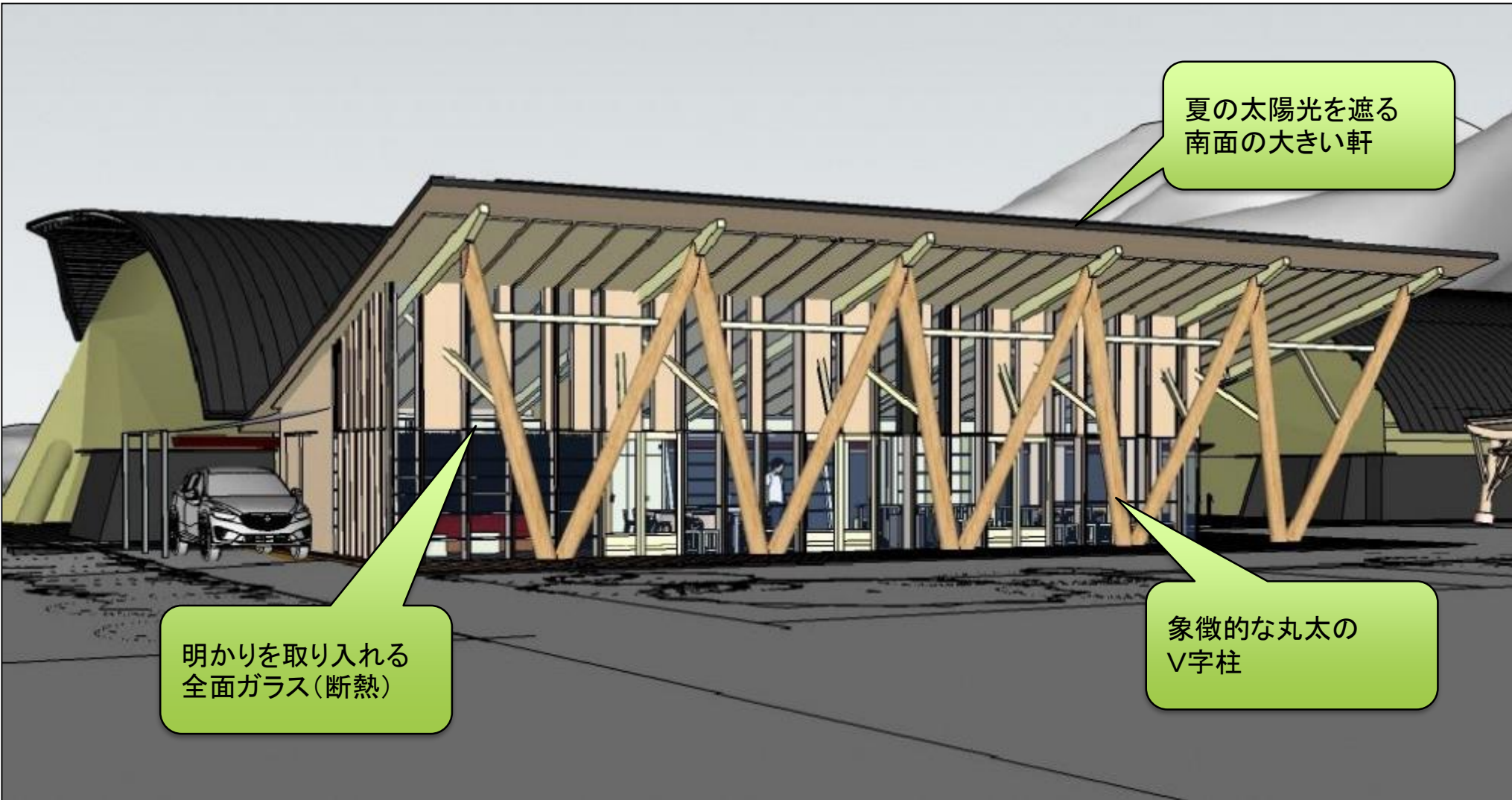
現在の指導者のレベルアップ  
新たな指導者の育成  
民間団体と連携したプログラムの実践を通じた団体の育成  
県内各地で質の高い森林教育を受けられるネットワーク構築



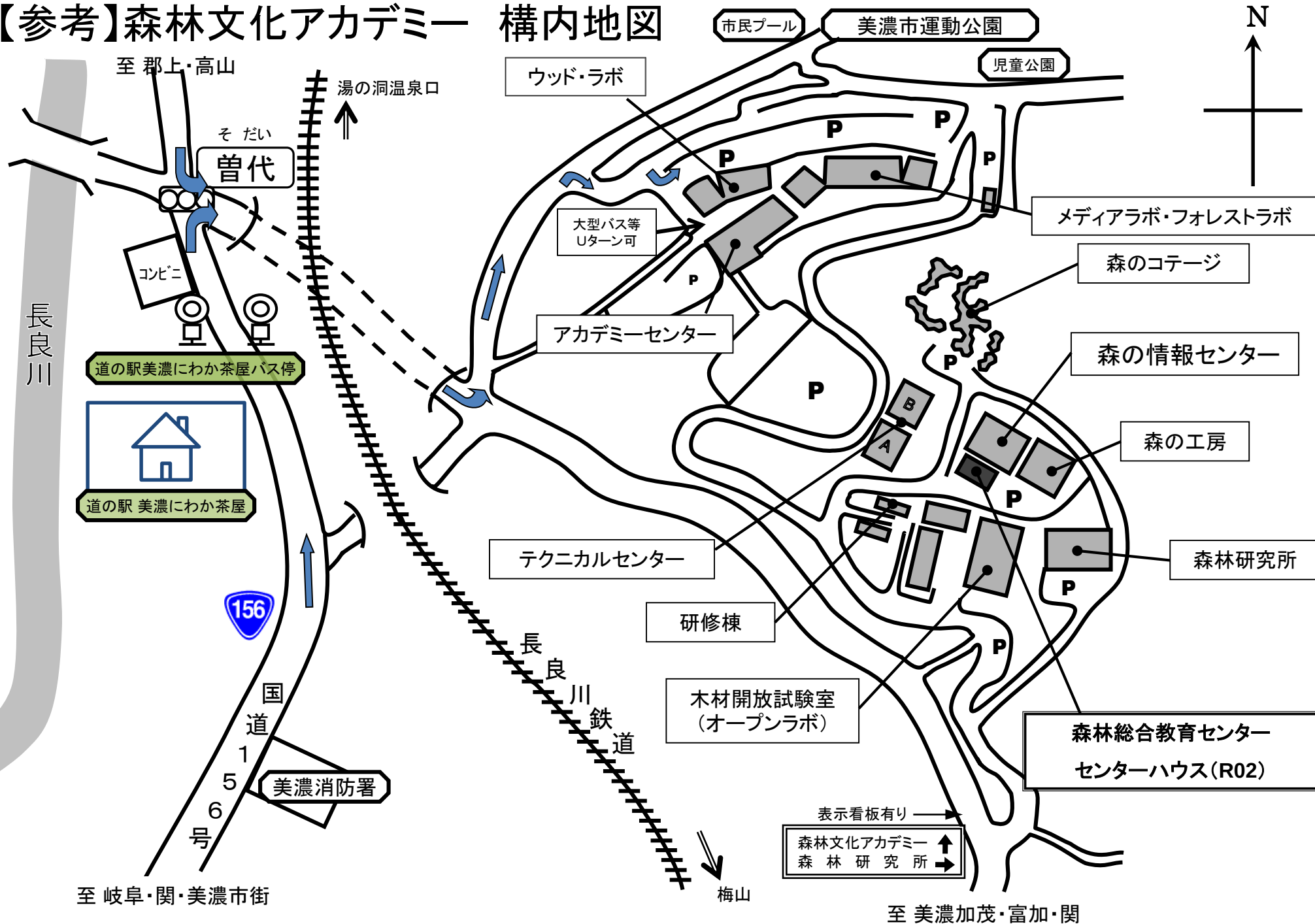
※ぎふ木育:岐阜県の豊かな自然を背景とした「森と木からの学び」を『ぎふ木育』と称する。  
子どもをはじめとする全ての県民が本県の森林(自然)に誇りと愛着をもち、森林に対して  
責任ある行動をとることができる人づくりを目指す。  
「自然体験活動」、「林業」、「木造建築」など、森や木とつながる活動を通じた学びを含むもの。

## 4 センターハウス

- 森林総合教育センターのシンボルとして、毎日人が訪れる「森の入り口」となる施設
- 森林文化アカデミー学生が、建築家隈研吾氏の指導を受けて基本設計を作成



# 【参考】森林文化アカデミー 構内地図





## 【参考】森林文化アカデミー 演習林

アカデミーには、後者に隣接する33haの演習林があり、授業での実習及び様々な研修や生涯学習等において活用している。  
森林総合教育センターにおいても演習林を活用し、効果の高いプログラムを実施していく。

